

令和元年12月

# 朴大昊 学位論文審査要旨

主査 尾崎 米 厚  
副主査 山崎 章  
同 谷口 晋 一

## 主論文

Influence of a community-based approach to improve risk factors of lifestyle diseases by Japanese public health nurses: a case-control study

(日本の保健師による生活習慣病の危険因子を改善するための地域密着型アプローチの影響：症例対照研究)

(著者：朴大昊、濱田紀宏、中井翼、大塚裕真、吉田つばさ、涌波優、李瑛、紙本美菜子、井上和興、谷口晋一)

令和元年 Australian Journal of General Practice 48巻 713頁～721頁

## 参考論文

1. Effectiveness of ultrasonographic skeletal muscle assessment in patients after total knee arthroplasty

(人工膝関節全置換術後の患者における超音波検査骨格筋評価の有効性)

(著者：橋田勇紀、谷村千華、井上和興、朴大昊、尾崎まり、萩野浩)

令和元年 Osteoporosis and Sarcopenia 5巻 94頁～101頁

2. Small bowel obstruction due to mochi (rice cake): a case report and review of the literature

(餅 (ライスケーキ) による小腸閉塞：症例報告および文献レビュー)

(著者：朴大昊、井上和興、濱田紀宏、谷口晋一、佐藤尚喜、孝田雅彦)

平成30年 Yonago Acta Medica 61巻 82頁～86頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は鳥取市における特定健康診査に基づく地域における訪問指導介入の効果を3年後の健康診査の結果で評価した研究である。従来の対策で抜け落ちていた、メタボリック症候群者以外の生活習慣病ハイリスク者を抽出し、訪問面接指導した効果を臨床疫学的に評価したものである。その結果、保健指導が高血圧、脂質異常、高血糖の検査値の改善に関連するのみならず、指導を頻回に行うことの効果や特定の疾患への指導が、そのほかの生活習慣病のリスクも低下させることを明らかにした。本論文の内容は、地域医療研究の分野において、地域における地道な個別訪問指導の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認められる。